

ほかほかだより



2025 年8月6日



今日は、夏季登園日でした。

夏休み中ですが、幼稚園に集まって、命や平和について考える一日にしています。

1945 年 8 月 15 日の戦争終結から今年で 80 年。当時の話を語り継ぐ人も年々少なくなってきています。子どもたちが生の声を聞く機会はとても少ないと思いますが、様々な機会を見つけて戦争・平和について考え、命の尊さについて感じてほしいと願っています。

今回は、クラスごとにそれぞれの絵本を見て、平和について考えました。年齢ごとのねらいをお知らせします。

ねらい

《年少》 『身の回りの命や平和を感じる』

《年中》 『自分や周りの人達の命の大切さを知る』

《年長》 『平和について話し、命の尊さを感じる』

絵本を通して『一人ひとりの命は何よりも大切である』ということ、「大好きな人と一緒に過ごせる」「友だちとあそべる」「嫌なことは嫌だと、一人でも意見が言える」という日常が『平和』であるということ等、各クラスに分かれて話しました。今日読んだ絵本を紹介します。園にありますので、またぜひ見てくださいね。

《年少》『へいわってどんなこと？』

作：浜田桂子（童心社）

～あらすじ～

へいわってどんなこと？「きっとね、へいわってこんなこと。せんそうをしない。いえやまちを はかいしない。いのちはひとりにひとつ、たったひとつのおもたい いのち・・・」色々な視点から平和を考え、平和の意味を問い返します。「へいわってぼくがうまれてよかったっていうこと」という言葉が印象的な本です。

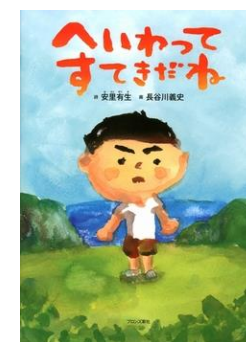


《年中》『へいわってすてきだね』

詩：安里有生 画：長谷川義史（ブロンズ新社）

～あらすじ～

戦争を知らない世代として、平和な時に生まれたことへの感謝と、平和が続くことを願う気持ちを綴ったものです。「みんなのころから、へいわがうまれるんだね」という言葉は、平和は一人ひとりの心から生まれるというメッセージを伝えています。この絵本は、平和の尊さや大切さを改めて感じさせてくれる作品です。



《年長》『8月6日のこと』

文：中川ひろたか 絵：長谷川義史（河出書房新社）

～あらすじ～

これは80年前、ほんとうにあったお話です。瀬戸内海はその日も おだやかな海でした。絵本作家の中川ひろたかさんが、広島原爆で亡くなった自分の伯父、被爆者となった自分の母の体験を伝え、こどもたちへ問いかけています。「核と平和」を描かれた絵本です。



☆おねがい☆

夏休み中 さくらんぼ保育利用の際は、9時～9時 10 分の登園をお願いします。遅刻や欠席をされる場合は必ず園に御連絡をお願いします。



今回の取り組みについての感想などお聞かせください。

お家でも今一度「平和や命」について話し合い、その時の子どもの様子やお家の方が感じられた事等も書いていただけると、嬉しいです。

（9 月 1 日始業式に持って来てください）